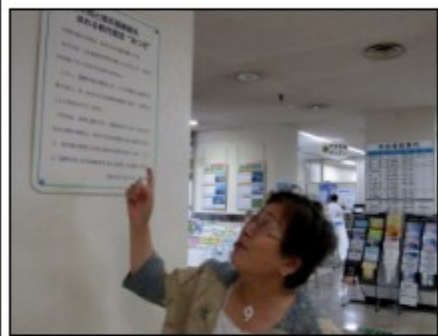


今週の活動から



市役所本庁舎1階ロビーの宣言プレート。公民館・小中学校など公共施設にあります。みなさんも探してみてください。

下さい。(上:釘丸久子議員)



7月24日、平和バスツアーの出発を、あゆこちゃんと一緒に。小学生の参加が多く、平和についてたくさん学

んできたでしょう。(下:栗山香代子議員)

平和を考える8月

平和バスツアー、パネル展、ビデオ上映

8月15日は終戦記念日。68年前の8月6日には広島に、9日には長崎に原子爆弾が投下され、日本は終戦を迎えました。

厚木市は1993年に「平和都市宣言」を制定し、今年は20年に なります。また、2010年には平和市長会議に加盟しました。

厚木市の平和の取り組みについてお知らせします。

市の平和宣言から20年

今年度の主な平和都市推進事業は、平和バスツアーと平和パネル展です。バスツアーは小中高生(小学生は保護者同伴)を対象に、7月24日、東京の平和祈念展示資料館や昭和三十九年東京都市宣言を見学しました。25名の募集に対して、55名の応募があり、大型バスに変更して全員参加できるようにしたそうです。

平和パネル展は8月8日(木)～15日(木)までヤングコミュニケーションセンター6階ギャラリーで開催します(9時～22時)。また、13・14・15日にはすぐ隣の研修室20で「戦争孤児のドキュメンタリー」ビデオ(20分)を上映します(9時～17時)。

また、中央図書館では、8月2日から9月4日までの1ヶ月間、平和関連の書籍等を地下・2・3階に展示する予定です。

「国際平和と核廃絶を求める都市宣言」あつぎ」のプレートは公共施設に282枚掲示されています。

平成25年度の平和都市推進事業費は470万円で、昨年より43万円減少しました。今年は厚木市が「平和都市宣言」をしてから20年、節目の年です。毎年の行事はそれなりに行っていますが、市民を巻き込んだ、全体的な行事は計画されていません。市の宣言

や平和市長会議加盟について市民へのアピールをもっと行う必要があるのではないのでしょうか。

核廃絶めざす平和市長会議

厚木市は、平成22年5月1日付けで平和市長会議に加盟しました。その際、核兵器のない世界を2020年までに実現するとして「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の賛同署名をしています。

平和市長会議は、世界の都市の緊密な連携により、核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器廃絶を実現させるとともに、人類の共存を脅かす飢餓、貧困、難民、人権などの諸問題の解決、さらには環境保護のために努力することによって、世界恒久平和の実現に寄与することを目的としています。この市長

会議に加盟しているのは、世界では157ヶ国5664都市、日本では1742自治体(76.3%)、神奈川県内では26市町村です。(いずれも2013年7月1日現在)



街頭で高校生と共に署名活動を行う松井広島市長(平和市長会議HPより)

国際平和と核兵器廃絶を求める都市宣言”あつぎ”

世界の恒久平和は、私たちの共通の願いです。私たちは、この地球を平和で美しいものとして、未来に引き継いでいかなければなりません。しかし、国際平和の実現には、人々の理解と協調が必要であり、今、私たちには世界的視野で考え、行動することが求められています。そのため、世界に開かれた”国際都市あつぎ”をめざす私たち厚木市民は、平和で安全な国際社会の実現に向けて、核兵器の廃絶と非核三原則の堅持を強く求め、ここに「国際平和と核兵器廃絶を求める都市」を宣言します。

(平成5年4月1日告示)

平和を願う歌 二首

徴兵は命かけても阻むべし
母・祖母・おみな 牢に満つるとも

石井 百代

この歌は1978年9月に朝日新聞歌壇に投稿されたもの。撰者の近藤芳美氏(歌人)は「結句にかけてなまなましい実感を伝えるものがある。一つの時代を生きてきたもののひそかな怒りであろう」と書いている。石井百代さん(1903年生まれ)は、3男4女の母。戦争中、夫・正(ただし)さんは軍医としてマニラに、大学生の長男・立(たつ)さんは病弱のため火薬庫に動員され、二男は航空士官学校を経て外地に。

石井さんは「私は兄、おい、二人のいとこ、義弟を戦死させています。あの戦争を聖戦と思い込んで、息子を戦争に差し出そうとしていたんです」と語っています。投稿当時、福田内閣が有事立法制定を狙っていました。この短歌は体を張ってでも孫たちを戦場には送らないという彼女の決意が現れています。

這うことも できなくなったが
手にはまだ 平和を守る一票がある

八坂 スミ

八坂スミさんは、70歳を越えて短歌を始め、77歳で第1歌集を出し、右の歌は第2歌集「私は生きる」に収められています。その「あとがき」で「ほんとうは病弱病臥の私。94歳の今日まで生きていくことさえ不思議なほどです。いのちとは何と微妙なものかの思いを深くしています」と述べています。

平和への熱い思いを、最後の最後まで貫き通した気概の感じられる一首です。